

生物展示ホールを改修しました！

奥村 みほ子・半田 宏伸

はじめに

自然の博物館では、1月25日から29日にかけて生物展示ホールの一部リニューアルを行いました。今回は大きく3か所の展示が変わりました。そこで、改修した生物展示ホールの新しい見どころについて紹介します。

見どころ①「ジオラマに加わった新しい生き物」

生物展示ホールには、これまでなかったきのこなどの動植物が加わりました。冬枯れの雑木林コーナーにはツチグリのレプリカを、夏のアカマツ林コーナーにはムササビの剥製を展示しました。初夏の原生林コーナーには、植物はホテイラン、きのこはマスタケとハナビラタケの精巧なレプリカ、動物はヒミズや天然記念物のヤマネといった小型哺乳類の剥製を展示しました。原生林という普段ではなかなか見られない環境で、これらの生物がどのように生きているのかを再現していますので、ぜひご覧ください。



ヤマネの剥製

見どころ②「鍾乳洞の展示ケース」

鍾乳洞コーナーには壁面に新しく展示ケースを設置しました。展示物は、秩父地域の石灰岩地で

みられる植物のレプリカや、鍾乳洞などの洞窟に生息するコウモリやカマドウマの仲間を展示しました。



鍾乳洞コーナーの展示ケース

見どころ③「小型アクリルケース」

展示ホール内の各所に、移動可能な小型のアクリルケースを増設しました。冬期にみられる昆虫の繭や、今年の特別展でも話題となった動物の糞などを展示しています。これまでのジオラマ展示では、生物の生活環境を忠実に再現しているため、小さく見えづらかったり、設置が難しかったりする資料は展示できませんでした。しかし、今回のアクリルケースの増設によりこういった資料の展示が可能になったので、展示物の幅が広がり、より充実した内容にすることができました。



ウスタビガを展示した小型アクリルケース

(おくむら みほこ・学芸員)

(はんだ ひろのぶ・学芸員)